

# 財 政 事 情 書

令和元年 1 1 月

平成 3 0 年度 決 算

令和 元 年度 予算に対する収支状況（上半期）

日 立 市

## ま え が き

市は、市民の皆さまに、最近の財政状況を通して市政の動きをお知らせし、豊かで住みよい地域づくりに一層のご理解とご協力をいただくために、財政状況を年2回公表しています。

今回の内容は、平成30年度決算の状況及び平成31年4月1日から令和元年9月30日までの間における収入支出の状況を始め、市民の市税負担の状況、補助金の交付状況、市債及び一時借入金の状況、市有財産の状況及び健全化判断比率等の状況についてお知らせするものです。

# 目 次

## ま え が き

	ページ
第1 平成30年度決算の状況について	1
1 一般会計	1
2 特別会計	14
3 企業会計	15
第2 令和元年度予算に対する上半期収入支出の状況について	16
1 一般会計	16
2 特別会計	18
3 企業会計	19
第3 市民の市税負担の状況について	20
第4 補助金の交付状況について	21
第5 市債及び一時借入金の状況について	22
1 市債現在高	22
2 一時借入金	24
第6 市有財産の状況について	25
1 公有財産の分類	25
2 公有財産現在高	25
3 基金の状況	27
第7 健全化判断比率等の状況について	29
1 健全化判断比率	29
2 資金不足比率	29
3 健全化判断比率等の対象範囲と実質収支額等	30

## 第1 平成30年度決算の状況について

### 1 一般会計

#### (1) 概要

平成30年度一般会計の決算額は、歳入総額791億7,856万円、歳出総額752億858万円で、前年度と比較すると、歳入では35億4,854万円（対前年度比4.7%）の増、歳出では49億8,686万円（同7.1%）の増となりました。

この結果、歳入歳出差引額（形式収支）は、39億6,998万円となりましたが、このうち令和元年度へ繰越しをした事業の財源として6億621万円を充てたので、それを差し引いた平成30年度の収入と支出の実質的な差額（実質収支）は、33億6,376万円となりました。

#### <平成30年度一般会計決算状況>

（単位：千円）

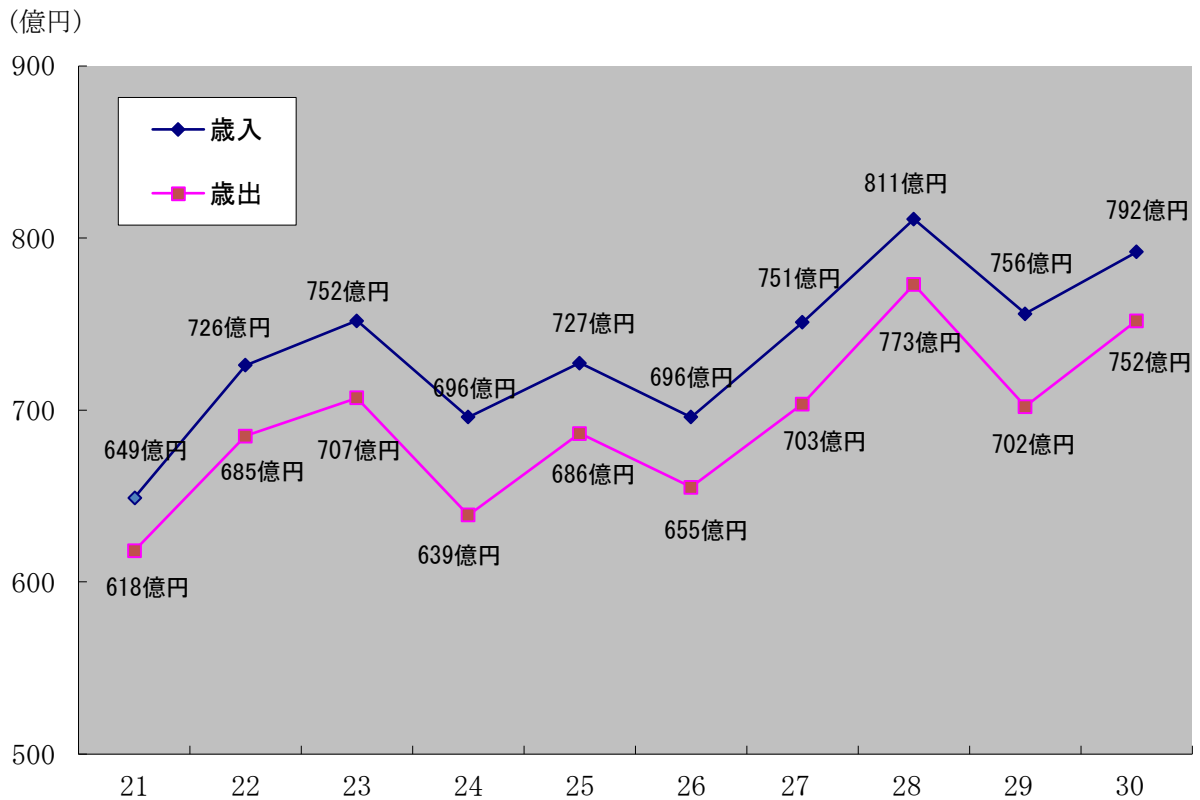
区 分	平成30年度 (a)	平成29年度 (b)	比 較	
			差引 (a)-(b) (c)	伸率(c)/(b)
最終予算額	80,947,932	77,975,539	2,972,393	3.8%
歳入総額(A)	79,178,558	75,630,019	3,548,539	4.7%
歳出総額(B)	75,208,583	70,221,728	4,986,855	7.1%
差引(A)-(B)	3,969,975	5,408,291		

#### <平成30年度一般会計収支状況>

（単位：千円）

区 分	平成30年度	平成29年度
歳入総額(A)	79,178,558	75,630,019
歳出総額(B)	75,208,583	70,221,728
歳入歳出差引額(C) ((A)-(B))	3,969,975	5,408,291
継続費逡次繰越額	47,064	966,956
繰越明許費繰越額	554,675	333,533
事故繰越し繰越額	4,475	0
翌年度へ繰り越すべき財源(D)	606,214	1,300,489
実質収支額(E) ((C)-(D))	3,363,761	4,107,802
単年度収支額(当該年度(E)-前年度(E))	△744,041	1,337,134

〈一般会計決算規模の推移〉



(2) 歳入

平成30年度の歳入決算額は、791億7,856万円で、予算額に対し97.8%の収入となっています。

歳入の主なものは次のとおりです。

区分	平成30年度	平成29年度	差引増減額	増減率(%)
市 税	278億2,229万円	282億167万円	△3億7,938万円	△ 1.3
地方交付税	65億6,685万円	70億4,472万円	△4億7,787万円	△ 6.8
国庫支出金	113億8,242万円	117億8,172万円	△3億9,930万円	△ 3.4
繰 入 金	46億4,566万円	32億7,336万円	13億7,230万円	41.9
諸 収 入	20億1,781万円	20億4,973万円	△3,192万円	△ 1.6
市 債	81億7,252万円	58億7,941万円	22億9,311万円	39.0

歳入全体に占める自主財源（市税、使用料、諸収入など、市が自ら確保できる収入）の割合は、56.1%で、市税収入・寄附金の減などにより、前年度に比べ0.3%減少しました。

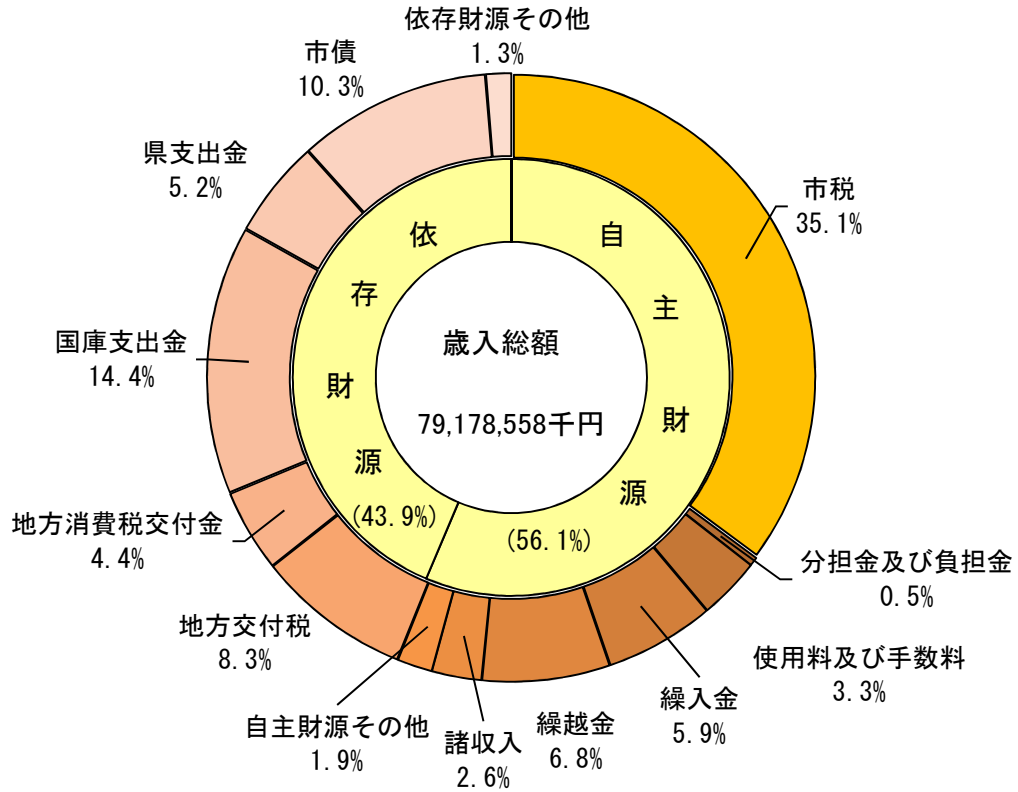
また、依存財源（国・県支出金、地方交付税、市債など、国や県から決められた額を交付されたり、割り当てられる収入）の割合は43.9%で、前年度大型事業の進捗に伴う市債の増などにより、前年度に比べ0.3%増加しました。

＜平成30年度一般会計歳入決算状況＞

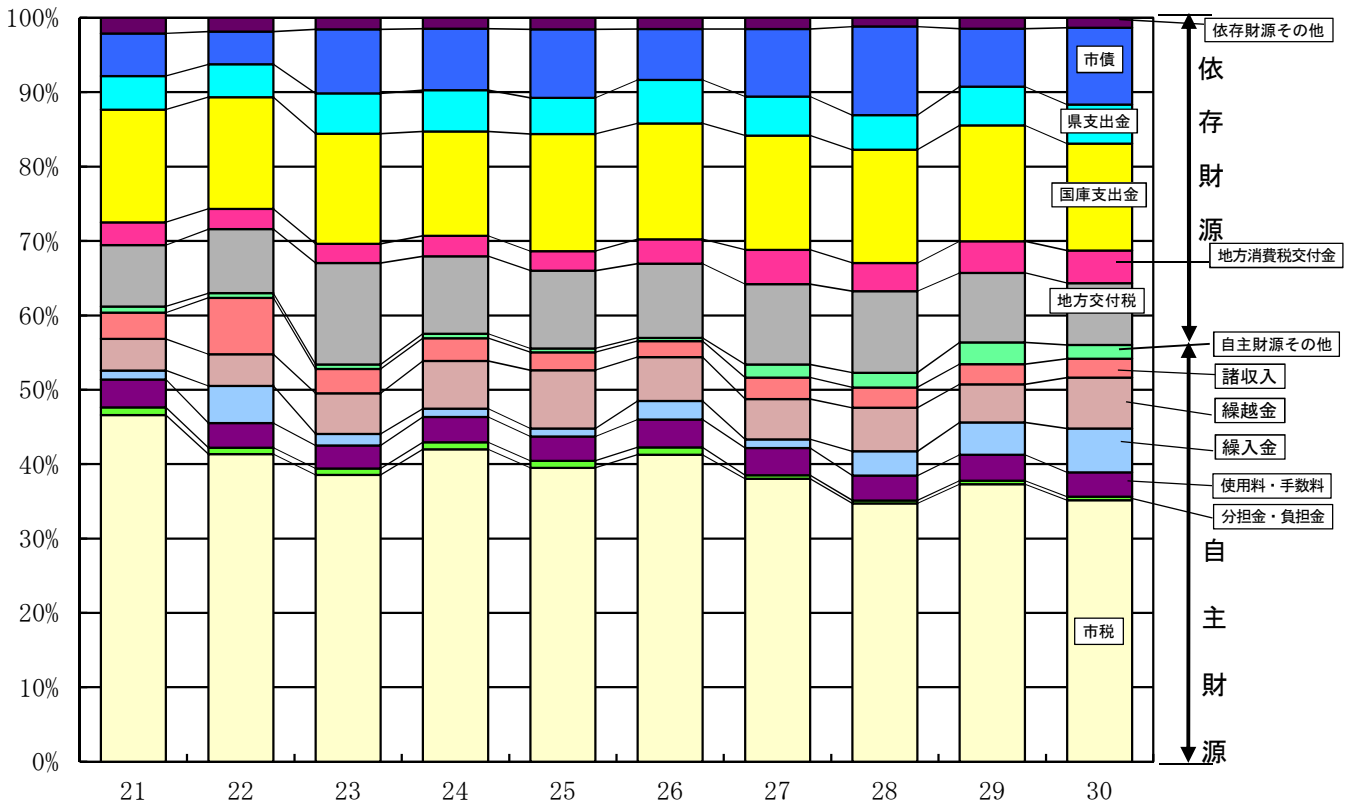
(単位：千円)

区 分	最終予算額 A	決算額 B	決算額の 構成比	収入率 B/A×100	平成29年度 決算額 C	決算額の 増減率 (B-C)/C ×100
市税	26,752,231	27,822,289	35.1%	104.0%	28,201,665	△1.3%
地方譲与税	524,000	551,053	0.7%	105.2%	545,282	1.1%
利子割交付金	30,000	41,232	0.1%	137.4%	40,440	2.0%
配当割交付金	50,000	93,956	0.1%	187.9%	122,207	△23.1%
株式等譲渡所得割交付金	21,000	80,739	0.1%	384.5%	120,823	△33.2%
地方消費税交付金	3,200,000	3,486,196	4.4%	108.9%	3,230,938	7.9%
ゴルフ場利用税交付金	12,000	13,975	0.0%	116.5%	14,349	△2.6%
自動車取得税交付金	60,000	139,698	0.2%	232.8%	137,614	1.5%
地方特例交付金	86,000	113,115	0.1%	131.5%	99,302	13.9%
地方交付税	6,566,849	6,566,849	8.3%	100.0%	7,044,719	△6.8%
交通安全対策特別交付金	37,000	27,035	0.0%	73.1%	29,856	△9.4%
分担金及び負担金	372,417	365,605	0.5%	98.2%	361,990	1.0%
使用料及び手数料	2,728,376	2,623,404	3.3%	96.2%	2,655,292	△1.2%
国庫支出金	12,677,067	11,382,422	14.4%	89.8%	11,781,722	△3.4%
県支出金	4,251,483	4,137,833	5.2%	97.3%	3,942,962	4.9%
財産収入	314,790	372,728	0.5%	118.4%	401,391	△7.1%
寄附金	1,117,116	1,116,159	1.4%	99.9%	1,824,969	△38.8%
繰入金	4,802,357	4,645,655	5.9%	96.7%	3,273,359	41.9%
繰越金	5,408,291	5,408,291	6.8%	100.0%	3,871,995	39.7%
諸収入	1,966,036	2,017,805	2.6%	102.6%	2,049,734	△1.6%
市債	9,970,919	8,172,519	10.3%	82.0%	5,879,410	39.0%
計	80,947,932	79,178,558	100.0%	97.8%	75,630,019	4.7%

<自主財源・依存財源別構成比>



<歳入決算の財源別構成比の推移>

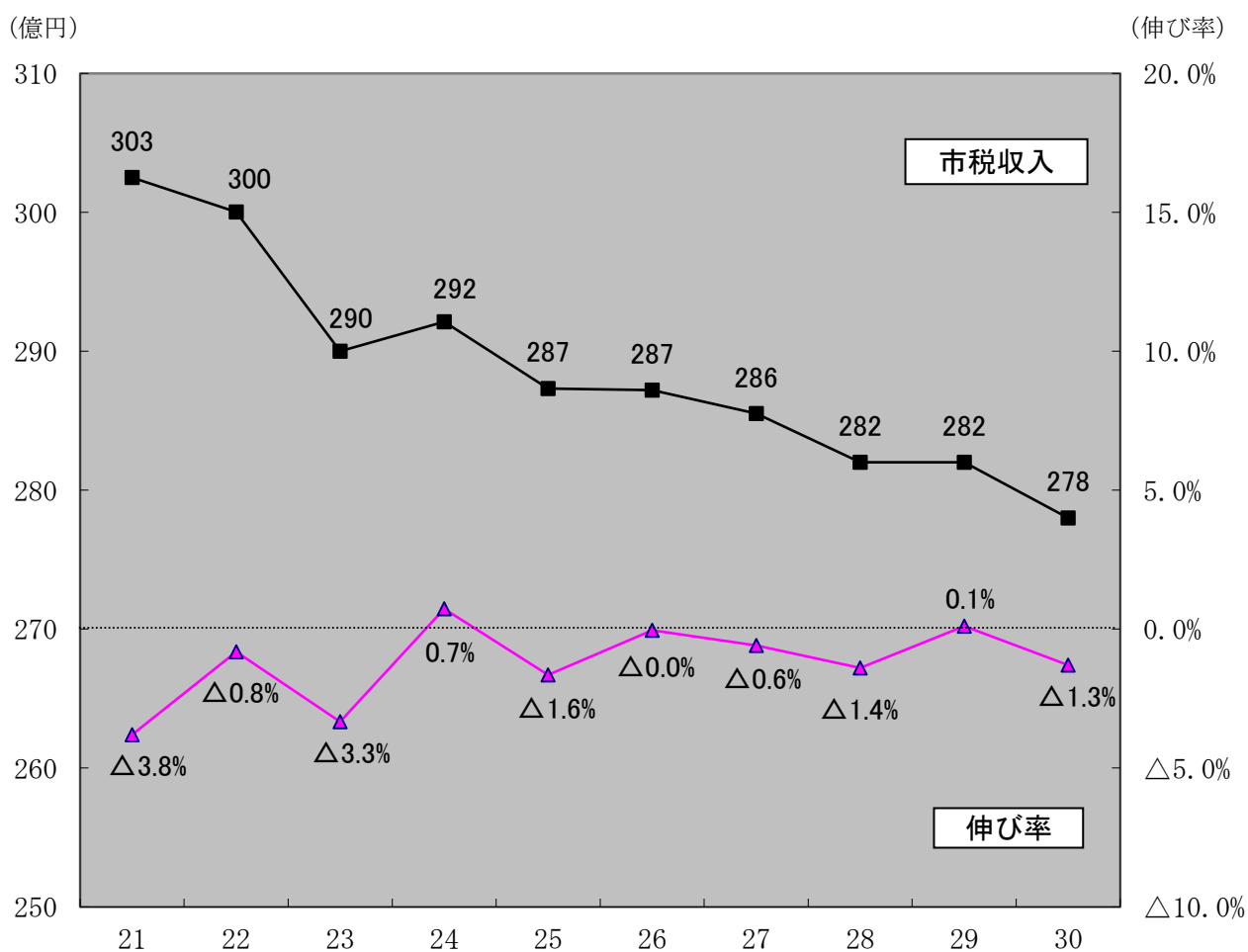


次に、主な歳入について内容を見ます。

## ア 市税

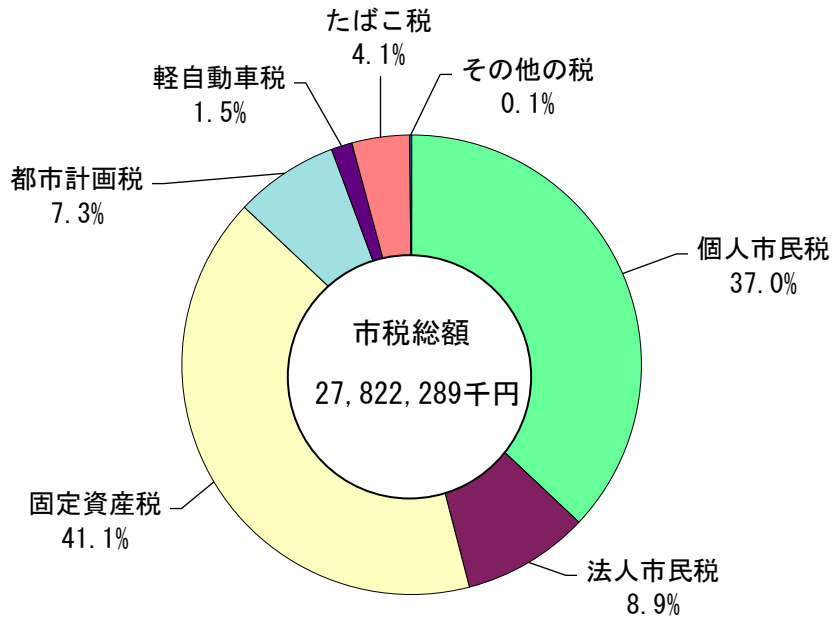
平成30年度の決算額は、278億2,229万円で、歳入総額の35.1%を占めています。

市税収入は、個人市民税が前年度から3,356万円の減、法人市民税が2億2,318万円の減、また、固定資産税が地価の下落等で5,475万円の減となったことにより、市税収入全体としては、3億7,938万円の減額となりました。





＜市税の税目別決算構成比＞



イ 地方消費税交付金

地方消費税交付金は、国税である消費税と同様に課税される地方消費税の1/2相当額が、市町村に交付されるものです。平成26年4月1日から、消費税及び地方消費税の税率が、5%から8%に引き上げられ、この引き上げ分に係る地方消費税交付金については、社会保障施策に要する経費に充てられています。

平成30年度の決算額は、34億8,620万円で、歳入総額に占める割合は、4.4%となっています。そのうち社会保障費分の13億9,241万円を各施策に充てています。

前年度決算額（32億3,094万円）と比較すると、2億5,526万円（対前年度比7.9%）の増額となりました。

＜地方消費税交付金（社会保障財源化分）の使途＞

（単位：千円）

項目		決算額	特定財源	一般財源 (社会保障財源化分)	一般財源
民生費	社会福祉費	9,726,843	4,813,143	386,993	4,526,707
	老人福祉費	3,068,887	490,622	494,585	2,083,680
	児童福祉費	7,862,563	4,449,401	257,893	3,155,269
	生活保護費	3,999,826	2,951,775	1,415	1,046,636
衛生費	保健衛生費	1,850,021	140,251	251,520	1,458,250
合計		26,508,140	12,845,192	1,392,406	12,270,542

ウ 地方交付税

地方交付税は、すべての地方公共団体が一定水準の行政サービスや道路等の社会資本を提供できるよう国税5税（所得税、法人税、酒税、消費税、地方法人税）の一定割合を原資として、国から市町村などに対し、需要と収入などの財政状況に応じて交付されるものです。

平成30年度の決算額は、65億6,685万円で、歳入総額に占める割合は、8.3%となっています。

また、前年度決算額（70億4,472万円）と比較すると、4億7,787万円（対前年度比6.8%）の減額となりました。これは、普通交付税が減額となったことなどによるものです。

## エ 国庫支出金

国庫支出金は、地方公共団体が行う特定の事務事業に対して国から交付されるものです。平成30年度の決算額は、113億8,242万円で、歳入総額に占める割合は14.4%となっています。

また、前年度決算額（117億8,172万円）と比較すると、3億9,930万円（対前年度比3.4%）の減額となりました。これは、社会資本整備総合交付金が新交通導入事業の概成などにより、減額となったことなどによるものです。

## オ 寄附金

寄附金は、民法上贈与と呼ばれているもので、その用途を特定しない一般寄附と、その用途を限定した指定寄附があります。

平成30年度の決算額は、11億1,616万円で、歳入総額に占める割合は、1.4%となりました。

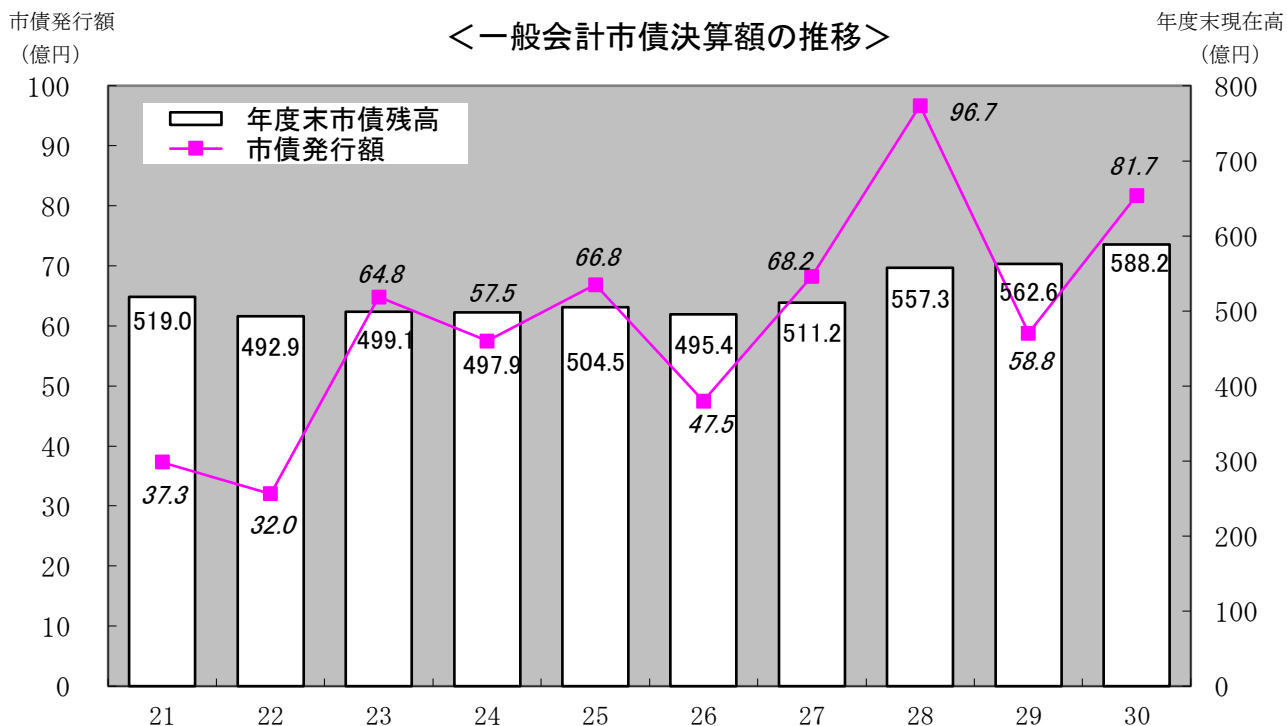
また、前年度決算額（18億2,497万円）と比較すると、7億881万円（対前年度比38.8%）の減額となりました。

## カ 市債

市債は、市が公共事業や災害復旧事業などを行うための長期返済を伴う借入金です。

平成30年度の決算額は、81億7,252万円で、歳入総額に占める割合は10.3%となっています。

また、前年度決算額（58億7,941万円）と比較すると、22億9,311万円（対前年度比39.0%）の増額となりました。これは南部地区消防庁舎整備事業費の皆増、新庁舎建設事業費や大甕駅周辺地区整備事業費、学校給食共同調理場建設事業費の増など、大型事業の進捗により、市債発行額が増額となったことによるものです。



### (3) 歳出

平成30年度の歳出決算額は、752億858万円で、予算額に対し92.9%の執行率となっています。

次に、歳出の概要を目的別ごとに見てみます。

#### ア 歳出決算の目的別内訳

歳出決算を目的別に分類してみると、最も構成比が高いのは民生費の32.9%、続いて総務費(16.5%)、教育費(13.7%)となっています。

民生費は、鳩が丘障害者福祉施設再整備事業費、自立支援等給付事業費及び(仮称)はなやま認定こども園園舎建設事業費などの増額により、前年度に比べて1億1,861万円の増額となりました。

総務費は、新庁舎建設事業費や、私たちの科学を軸としたまちの賑わい創出事業費、公共施設マネジメント推進事業費などの増額により、前年度に比べて19億6,307万円の増額となりました。

教育費は、学校給食共同調理場建設事業費、豊浦小学校校舎改築事業費及び久慈小学校校舎・屋内運動場改築事業費などの増額により、前年度に比べて15億9,538万円の増額となりました。

目的別経費の主な内容は、次のとおりです。

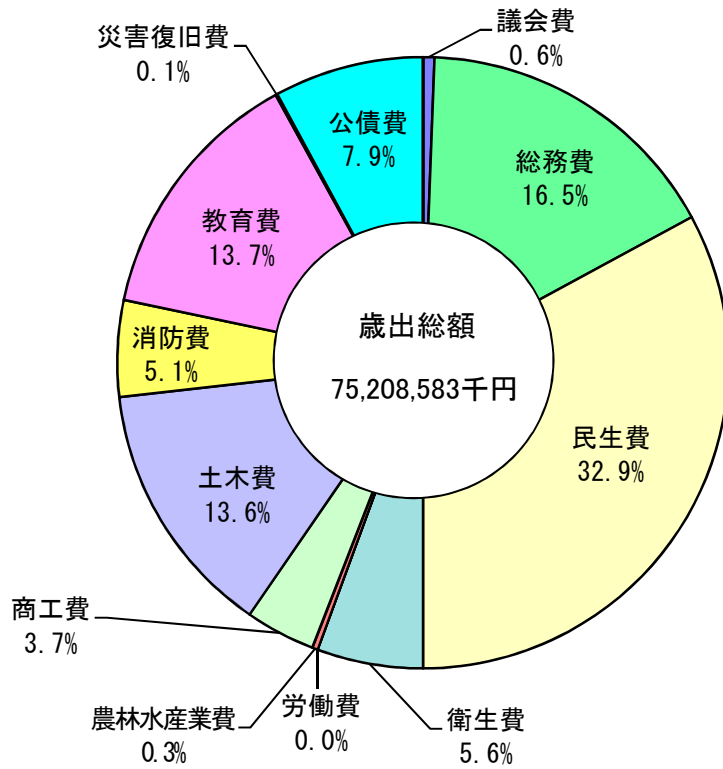
区 分	主 な 内 容
議 会 費	市議会議員の報酬、議会の開催費、議会事務局の運営費
総 務 費	庁舎の維持管理費、財産管理費、徴税費、統計調査費、戸籍住民基本台帳費、企画費、監査委員費、市民運動推進費、防災・防犯対策費
民 生 費	社会福祉費、障害者福祉費、老人福祉費、児童福祉費、生活保護費、女性活動推進費
衛 生 費	保健衛生費、清掃費、環境保全対策費
労 働 費	勤労者福祉対策費、雇用安定対策費
農 林 水 産 業 費	農業委員会費、農業・林業・水産業振興費、漁港費
商 工 費	商工振興費、計量検査費、観光費、奥日立観光施設費、温泉保養施設費、久慈観光交流施設費、消費生活対策費
土 木 費	道路、河川、港湾、下水道、公園、公営住宅などの整備・管理費、都市計画費、交通安全対策費
消 防 費	常備消防費、非常備消防費、消防施設・車両整備費
教 育 費	小・中・特別支援学校及び幼稚園の整備・管理費、社会教育費、保健体育費
災 害 復 旧 費	津波被災住宅再建支援補助費、応急仮設住宅借上事業費
公 債 費	市債の償還のための元金や利子、一時借入金の利子
予 備 費	予算の議決後に不測の事態が生じた場合に対処するための経費

〈平成30年度一般会計歳出決算状況〉

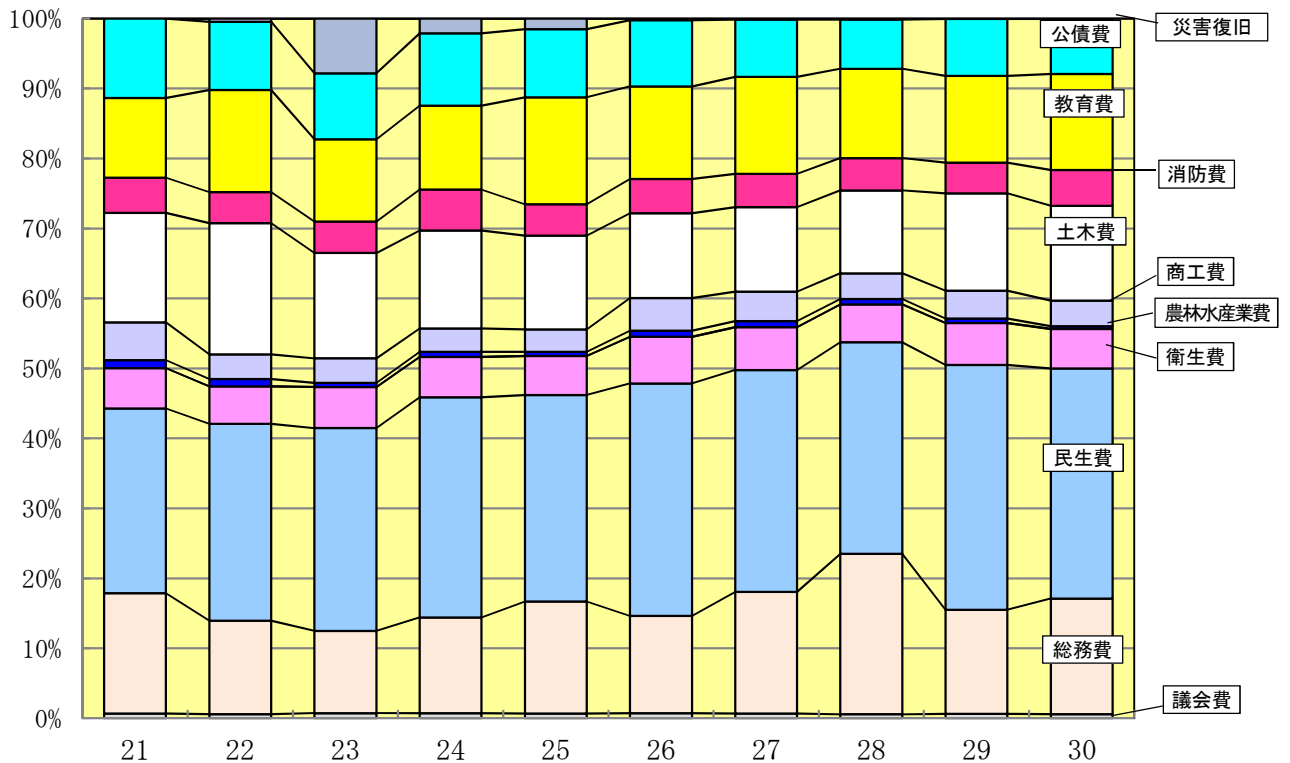
(単位：千円)

区 分	最終予算額 A	決算額 B	決算額の 構成比	執行率 B/A×100	平成29年度 決算額 C	決算額の増減 率 (B-C)/C ×100
議 会 費	438,103	422,593	0.6%	96.5%	433,497	△2.5%
総 務 費	12,664,097	12,434,823	16.5%	98.2%	10,471,756	18.7%
民 生 費	25,815,247	24,750,529	32.9%	95.9%	24,631,922	0.5%
衛 生 費	4,485,028	4,218,811	5.6%	94.1%	4,207,087	0.3%
労 働 費	34,362	32,304	0.0%	94.0%	32,554	△0.8%
農 林 水 産 業 費	279,801	261,065	0.3%	93.3%	276,281	△5.5%
商 工 費	3,073,220	2,751,537	3.7%	89.5%	2,798,898	△1.7%
土 木 費	12,654,396	10,207,473	13.6%	80.7%	9,803,333	4.1%
消 防 費	3,907,117	3,845,335	5.1%	98.4%	3,069,839	25.3%
教 育 費	11,560,247	10,325,273	13.7%	89.3%	8,729,895	18.3%
災 害 復 旧 費	41,529	38,786	0.1%	93.4%	49,240	△21.2%
公 債 費	5,920,965	5,920,054	7.9%	100.0%	5,717,426	3.5%
予 備 費	73,820	-	-	-	-	-
計	80,947,932	75,208,583	100.0%	92.9%	70,221,728	7.1%

<歳出決算の目的別構成比>



<歳出決算の目的別構成比の推移>



## イ 歳出決算の性質別内訳

歳出決算を構成比でみると、道路や学校、公園などの公共施設の建設費用を計上している普通建設事業費が22.8%と最も高く、生活に困っている方や高齢者、あるいは医療福祉費支給制度（通称「マル福」）など、各種支援を行う扶助費が19.6%、次いで委員報酬や職員給与費などからなる人件費が16.9%と続きます。

また、それぞれの性質別経費は、「義務的経費」、「投資的経費」及び「その他の経費」とに分けることができます。義務的経費とは、人件費、扶助費及び公債費の合計であり、平成30年度決算額は、333億8,571万円で歳出総額の44.4%を占めています。

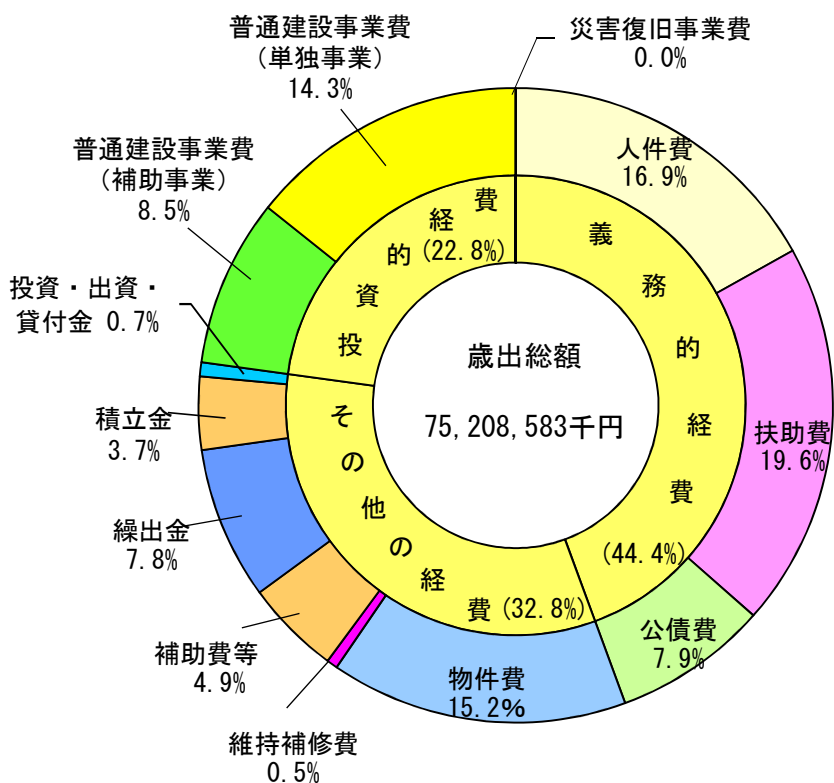
扶助費は国の臨時福祉給付金給付事業の皆減などにより前年度決算額と比べて1.4%の減となったものの、高齢化の更なる進行等に伴い、扶助費の占める割合が年々上昇する傾向にあることから、市では、職員の定員管理の適正化や経常的な事務事業の見直しを進めるなど、義務的経費の削減に努めています。

### <平成30年度一般会計性質別歳出決算状況>

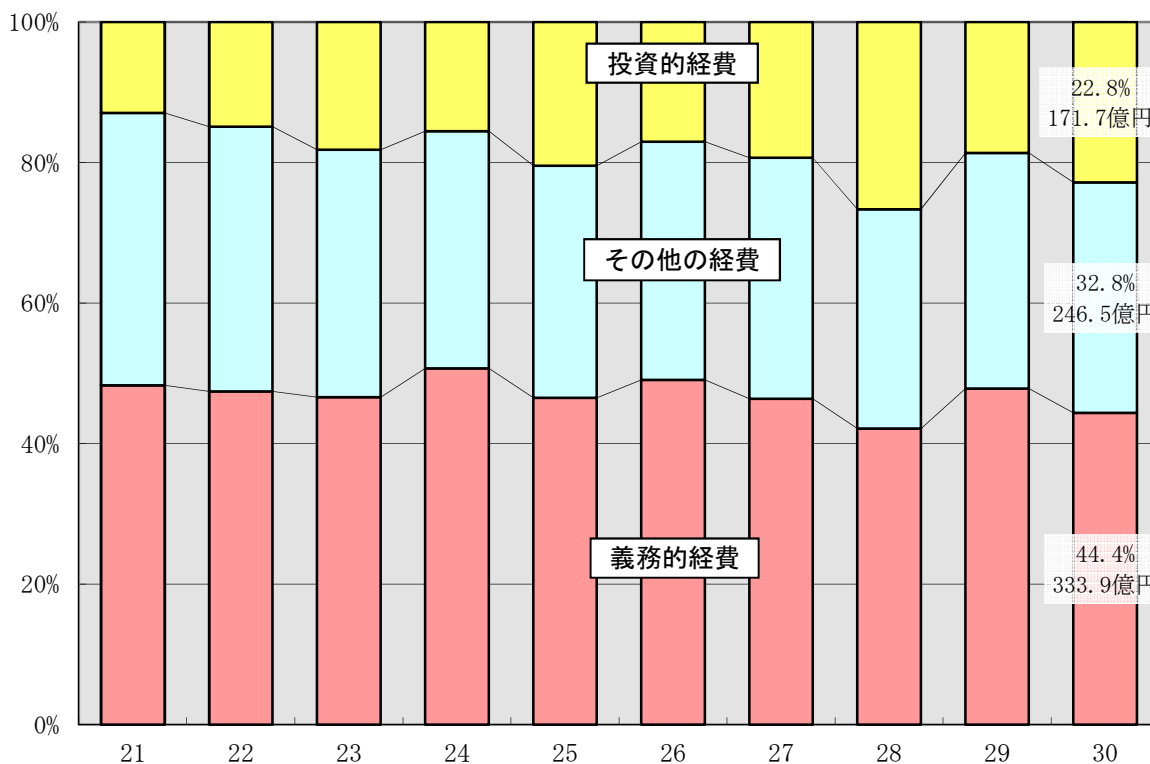
(単位：千円)

区 分	決 算 額		増減率 (A-B)/B×100	構 成 比	
	平成30年度 A	平成29年度 B		平成30年度	平成29年度
義務的経費	33,385,710	33,585,133	△0.6%	44.4%	47.8%
人 件 費	12,700,806	12,897,103	△1.5%	16.9%	18.4%
扶 助 費	14,766,253	14,972,007	△1.4%	19.6%	21.3%
公 債 費	5,918,651	5,716,023	3.5%	7.9%	8.1%
その他の経費	24,650,172	23,552,536	4.7%	32.8%	33.6%
物 件 費	11,397,305	11,538,781	△1.2%	15.2%	16.4%
維持補修費	415,644	411,883	0.9%	0.5%	0.6%
補助費等	3,659,927	3,305,039	10.7%	4.9%	4.7%
繰 出 金	5,845,523	5,574,610	4.9%	7.8%	8.0%
積 立 金	2,807,023	2,177,483	28.9%	3.7%	3.1%
投資・出資・貸付金	524,750	544,740	△3.7%	0.7%	0.8%
投資的経費	17,172,701	13,084,059	31.2%	22.8%	18.6%
普通建設事業費	17,170,367	13,081,712	31.3%	22.8%	18.6%
うち補助事業	6,434,965	6,552,375	△1.8%	8.5%	9.3%
うち単独事業 (県営事業負担金を含む)	10,735,402	6,529,337	64.4%	14.3%	9.3%
災害復旧事業費	2,334	2,347	△0.6%	0.0%	0.0%
うち補助事業	1,582	1,582	0.0%	0.0%	0.0%
うち単独事業 (県営事業負担金を含む)	752	765	△1.7%	0.0%	0.0%
計	75,208,583	70,221,728	7.1%	100.0%	100.0%

＜歳出決算の性質別構成比＞



＜歳出の性質別構成比の推移＞



#### (4) 日立市の家計簿

市の財政状況を身近に感じていただくため、平成30年度一般会計決算を一般家庭の1か月の家計簿に置き換えてみました。

家庭と市では、お金の使い方も規模も違うので、単純に比較することはできませんが、平成30年度歳入決算額791億7,856万円を月収333,000円（年収約400万円）として計算しています。

#### 日立市の財政を家計に例えると・・・

収 入			支 出		
項 目	平成30年度	前年度比	項 目	平成30年度	前年度比
給 与	163,700円	-2,800円	食 費 (人件費)	53,400円	-800円
うち基本給 (市税)	117,000円	-1,600円	医療費 (扶助費)	62,100円	-900円
うち諸手当 (地方交付税、その他依存財源)	46,700円	-1,200円	ローンの返済 (公債費)	24,900円	+900円
パート収入 (使用料・手数料、諸収入など)	27,300円	-3,400円	光熱水費など雑費 (物件費)	47,900円	-600円
親からの仕送り (国・県支出金)	65,300円	-800円	子どもへの仕送り (繰入金)	24,600円	+1,200円
銀行からの借入金 (市債)	34,400円	+9,700円	家の修繕、増改築 (維持補修費、普通建設事業費など)	74,000円	+17,200円
預金の引出し (繰入金)	19,600円	+5,800円	自治会費や友人への援助 (補助費等、貸付金など)	17,600円	+1,400円
前月からの繰越金 (繰越金)	22,700円	+6,400円	普通預金などへの貯金 (積立金)	11,800円	+2,600円
合 計	333,000円	+14,900円	合 計	316,300円	+21,000円

翌月への繰越金  
(収入－支出) +16,700円

#### 収入の状況

全体で14,900円増えました

市税の減少により**基本給**が減ったほか、国からの震災復興特別交付税等の**諸手当**が減ったことにより、**給与**が前年度より下がりました。

一方で、大型事業の進捗に伴う**銀行からの借入金**が増えたほか、**預金の引出し**が増えたことにより、1か月の収入が前年度に比べて増えている状況です。

#### 支出の状況

全体で21,000円増えました

大甕駅周辺地区整備事業や新庁舎建設事業、南部地区消防庁舎整備事業、鳩が丘障害者福祉施設再整備事業などの**家の修繕、増改築**に係る費用が大きく増えたことなどにより、昨年度に比べ支出総額が増えている状況です。

#### 【用語の解説】

◎**人件費**…職員や各委員などに支払われる給料や報酬などの経費です。

◎**扶助費**…生活に困っている方や高齢の方、障害をお持ちの皆さまなどの生活をサポートするための経費です。また、マル福などの医療費助成なども含まれます。

◎**公債費**…市債を発行して借りたお金（市の借金）を返済するための経費です。

◎**物件費**…施設に係る光熱水費を始め、消耗品などを買ったり、専門業者さんに仕事をお願い（委託）する経費です。

◎**繰入金**…国民健康保険や介護保険などの特別会計などに対して支出する経費です。

◎**維持補修費**…建物の管理や補修のために使う経費です。

◎**普通建設事業など**…道路や学校などの建物を造ったり、大規模な改修を行う経費のほか、災害が発生したときに復旧するための経費です。

◎**補助費等**…各種団体などの活動を支援したり、一部事務組合等への負担金などの経費です。

◎**貸付金など**…関係機関への出資や市民の福祉増進を図るための貸付けなどを行う経費です。

◎**積立金**…市の基金（貯金）に積み立てる経費です。



## 2 特別会計

特別会計は、特定の事業を行う場合や、特定の歳入をもって特定の歳出に充てる場合など、一般会計とは区別して経理する必要があるものについて設置しています。

各会計別の平成30年度決算の状況は、下表のとおりです。

### <平成30年度特別会計決算状況>

(単位：千円)

会 計 名	最終予算額	歳入決算額 A	歳出決算額 B	歳入歳出 差 引 額 A－B	平成29年度 歳出決算額 C	決算額の 増減率 (B-C)/C ×100
国民健康保険事業	16,790,042	15,358,024	15,347,885	10,139	17,396,952	△11.8%
介護保険事業	16,194,037	15,231,147	15,035,079	196,068	14,148,696	6.3%
介護サービス事業	635,122	632,437	631,953	484	632,856	△0.1%
戸別合併処理浄化 槽事業	23,743	22,475	22,475	0	22,213	1.2%
後期高齢者医療事業	2,808,401	2,654,433	2,648,229	6,204	2,526,018	4.8%
計	36,451,345	33,898,516	33,685,621	212,895	34,726,735	△3.0%

### 3 企業会計

地方公営企業法を適用し、いわゆる企業会計方式により市が経営している事業は、水道事業及び下水道事業の2事業です。企業会計には、経常的な経営活動を示すもの（収益的収入及び支出）と建設改良事業等の資本的な収支を示すもの（資本的収入及び支出）があります。

企業会計の平成30年度決算の状況は、下表のとおりです。

#### <平成30年度企業会計決算状況>

(単位：千円)

会計名	項目	平成30年度 決算額 A	平成29年度 決算額 B	増減率 (A-B)/B×100
水道事業	収益的収入	3,746,054	3,785,088	△1.0%
	収益的支出	3,287,766	3,195,761	2.9%
	資本的収入	1,015,196	1,383,256	△26.6%
	資本的支出	2,801,618	2,999,865	△6.6%
下水道事業	収益的収入	4,164,212	4,173,996	△0.2%
	収益的支出	3,725,951	3,731,749	△0.2%
	資本的収入	1,215,389	1,223,351	△0.7%
	資本的支出	2,518,103	2,533,272	△0.6%

## 第2 令和元年度予算に対する上半期収入支出の状況について

### 1 一般会計

一般会計の令和元年9月30日現在の歳入予算の収入状況と歳出予算の支出状況は、次表のとおりです。

#### <令和元年度一般会計歳入予算額と収入状況（令和元年9月30日現在）>

(単位：千円)

区 分	予 算 現 額	収 入 済 額	収 入 割 合
市 税	26,824,369	15,934,328	59.4 %
地 方 譲 与 税	534,000	172,219	32.3
利 子 割 交 付 金	30,000	8,515	28.4
配 当 割 交 付 金	50,000	26,392	52.8
株式等譲渡所得割交付金	21,000	0	0.0
地方消費税交付金	3,400,000	1,968,723	57.9
ゴルフ場利用税交付金	12,000	5,891	49.1
自動車取得税交付金	30,000	45,175	150.6
環境性能割交付金	20,000	0	0.0
地方特例交付金	307,571	143,655	46.7
地方交付税	5,000,000	5,009,891	100.2
交通安全対策特別交付金	27,000	13,647	50.5
分担金及び負担金	304,167	147,115	48.4
使用料及び手数料	2,630,838	1,315,332	50.0
国庫支出金	11,431,158	3,568,545	31.2
県 支 出 金	4,380,552	413,016	9.4
財 産 収 入	358,342	59,871	16.7
寄 附 金	700,762	410,265	58.5
繰 入 金	5,526,712	0	0.0
繰 越 金	3,969,975	3,969,974	100.0
諸 収 入	1,632,191	476,670	29.2
市 債	8,863,000	7,100	0.1
計	76,053,637	33,696,324	44.3

＜令和元年度一般会計歳出予算額と支出状況（令和元年9月30日現在）＞

（単位：千円）

区 分	予 算 現 額	支 出 済 額	支 出 割 合
議 会 費	444,166	217,711	49.0 <sup>%</sup>
総 務 費	8,972,505	3,647,705	40.7
民 生 費	26,416,246	9,269,967	35.1
衛 生 費	4,818,932	1,134,508	23.5
労 働 費	43,532	20,241	46.5
農 林 水 産 業 費	273,127	103,747	38.0
商 工 費	3,772,702	1,728,029	45.8
土 木 費	10,127,791	2,934,327	29.0
消 防 費	4,366,478	1,567,497	35.9
教 育 費	10,315,864	3,180,883	30.8
災 害 復 旧 費	70,910	11,492	16.2
公 債 費	6,219,499	3,028,713	48.7
予 備 費	211,885	0	0.0
計	76,053,637	26,844,820	35.3

## 2 特別会計

特別会計の令和元年9月30日現在の予算額及び収入支出の状況は、下表のとおりです。

それぞれの会計の性質及び内容により、その執行状況も異なりますが、市は事業の性質に応じて効率的に執行するよう努めています。

### <令和元年度特別会計予算額と収入支出の状況（令和元年9月30日現在）>

（単位：千円）

会 計 名	予 算 現 額	執 行 状 況			
		収入済額	収入割合 (%)	支出済額	支出割合 (%)
国民健康保険事業	15,171,640	5,502,856	36.3	5,277,143	34.8
介護保険事業	16,310,800	6,093,538	37.4	6,339,208	38.9
介護サービス事業	625,881	174,026	27.8	332,752	53.2
戸別合併処理浄化槽事業	23,761	2,941	12.4	7,083	29.8
後期高齢者医療事業	2,952,278	1,094,318	37.1	769,581	26.1
計	35,084,360	12,867,679	36.7	12,725,767	36.3

### 3 企業会計

企業会計の令和元年9月30日現在の予算額及び収入支出の状況は、下表のとおりです。

企業会計の収入・支出には、それぞれ収益的なものと資本的なものに分かれており、その性質や内容により、その執行状況も異なりますが、市は事業の性質に応じて効率的に執行するよう努めています。

#### <令和元年度企業会計予算額と収入支出の状況（令和元年9月30日現在）>

(単位：千円)

会計名	区分	予算現額	執行状況	
			収入・支出済額	執行割合(%)
水道事業	収入	4,691,650	1,624,390	34.6
	支出	6,083,362	2,377,402	39.1
下水道事業	収入	5,687,358	1,386,044	24.4
	支出	6,555,422	1,990,949	30.4
計	収入	10,379,008	3,010,434	29.0
	支出	12,638,784	4,368,351	34.6

### 第3 市民の市税負担の状況について

市の財政は、市民の皆さまからの直接的・間接的な負担によって賅われています。なかでも市税は、市の財政を運営していくための基盤となる最も重要な歳入であり、市は、常に適正で公平な取扱いに努めています。

平成30年度の市税決算額は、278億2,229万円となっており、市民の皆さまの負担額を世帯、人口の平均で表すと、下表のようになります。

#### 〈市民の市税負担の状況〉

税目	区分	平成30年度決算額	1世帯当たり負担額 (年額) (注1)	1人当たり負担額 (年額) (注1)
直接税		千円 26,657,872	円 339,803	円 150,535
市民税		12,785,931	162,980	72,201
固定資産税		11,425,833	145,643	64,521
軽自動車税		410,495	5,232	2,318
都市計画税 (注2)		2,033,582	25,922	11,483
鉱産税		2,031	26	12
間接税		1,164,417	14,842	6,575
市たばこ税		1,129,436	14,397	6,378
入湯税 (注2)		34,981	446	197
計		27,822,289	354,645	157,110

(注1) 世帯数 78,451世帯、人口 177,088人 (H31.4.1現在 常住人口)

(注2) 都市計画税と入湯税は、その使い道が特に定められている目的税です。

**都市計画税**は、都市計画事業（市街地の開発や都市計画施設の整備）に要する費用の一部を負担していただく税で、主に、下水道事業や街路事業、公園の整備費用の一部に充てられています。

**入湯税**は、環境衛生施設や消防施設などの整備や観光の振興などの費用に充てられる税で、主に、清掃センターの運営経費の一部に充てられています。

#### 第4 補助金の交付状況について

市では、各種団体などが行う特定の事務事業に対し、公益上必要がある場合に、その事務事業の実施に必要な経費に対して補助金を交付しています。補助金は、行政サービスを補完する公共的サービスの誘導や公益的な市民活動の活性化など、市が施策を展開する上で重要な役割を果たしています。

令和元年度決算における補助金の交付状況については、下表のとおりです。

#### ＜ 施策別補助金の交付状況 ＞

(単位：千円)

施策区分	件数	金額	主な補助金名
福祉・医療 「健やかで安心して暮らせるまち」	63	873,089	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療支援病院医療機器整備事業費補助 260,000</li> <li>・市社会福祉協議会運営費補助 79,756</li> <li>・公的病院等運営費補助 63,446</li> <li>・民間児童クラブ運営費補助 63,298</li> <li>・公的病院等医療体制強化事業費補助 54,000</li> </ul>
教育・文化 「人と文化をつくるまち」	60	147,651	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私立幼稚園就園奨励費補助 24,293</li> <li>・市中学校体育連盟補助 10,905</li> <li>・私立幼稚園就園推進補助 10,887</li> <li>・市文化協会運営事業補助 7,779</li> <li>・市自然の村協力会補助 6,675</li> </ul>
産業 「活力ある産業のまち」	66	400,211	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治・振興金融融資保証料補給 79,979</li> <li>・自治・振興金融利子補給 57,902</li> <li>・産業集積促進奨励金 53,870</li> <li>・一般社団法人日立市観光物産協会補助 28,428</li> <li>・農産物直販施設等整備補助 25,650</li> </ul>
都市基盤 「都市機能が充実したまち」	29	397,570	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひたち子育て応援マイホーム取得助成事業補助 117,750</li> <li>・下水道使用料納付組合奨励金 99,977</li> <li>・ひたちBRT専用車両導入補助 51,349</li> <li>・土地区画整理組合事務費補助 24,886</li> <li>・市民生活バス路線確保対策事業補助 23,358</li> </ul>
生活環境 「安全で環境にやさしいまち」	15	73,195	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防犯灯設置費補助 43,085</li> <li>・新エネルギー機器普及促進事業補助 16,013</li> <li>・自主防災組織育成事業補助 3,752</li> <li>・環境教育活動支援事業補助 3,087</li> <li>・エコフェスひたち2018実行委員会補助 2,500</li> </ul>
協働 「みんなで築くまち」	18	82,575	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市コミュニティ推進協議会補助 32,866</li> <li>・政務活動費補助 11,242</li> <li>・映画「ある町の高い煙突」製作補助 10,000</li> <li>・地域集会所建設等補助 8,760</li> <li>・国体支援コミュニティ活動推進事業補助 6,338</li> </ul>
計	251	1,974,291	



## 第5 市債及び一時借入金の状況について

### 1 市債現在高

市では、市民福祉の増進のための各種建設事業や災害復旧事業について、市債を発行し、事業の積極的な推進を図っています。

こうして建設した施設は長期間にわたって利用することができますので、建設時の市民だけでなく、将来の市民にもその経費を、市債の償還という形で負担していただくことが公平であると考えられます。市債の償還、つまり借入金の返済は、公債費という名目で毎年の歳出予算に計上されます。

平成30年度末現在の一般会計の市債残高は、588億2,465万円で、南部地区消防庁舎整備事業費や新庁舎建設事業費、大甕駅周辺地区整備事業費、学校給食共同調理場建設事業費などの増加により、前年度（562億5,684万円）に比べ、25億6,781万円増加しました。

また、特別・企業会計の市債残高は、316億939万円で、下水道事業債などの減少により、前年度（334億8,434万円）に比べ、18億7,495万円減少しました。

各事業別の市債残高の内訳は、次ページの表のとおりです。

なお、平成30年度末現在の市民1人当たりの市債残高は、一般会計で33.2万円となり、前年度（31.4万円）に比べて増加しています。

また、利用者からの使用料などで返済する特別・企業会計の市債（水道事業債や下水道事業債など）を含めると、市民1人当たりの市債残高は51.1万円となり、前年度（50.1万円）から増加しています。

(注) 人口 177,088人 (H31.4.1現在 常住人口)

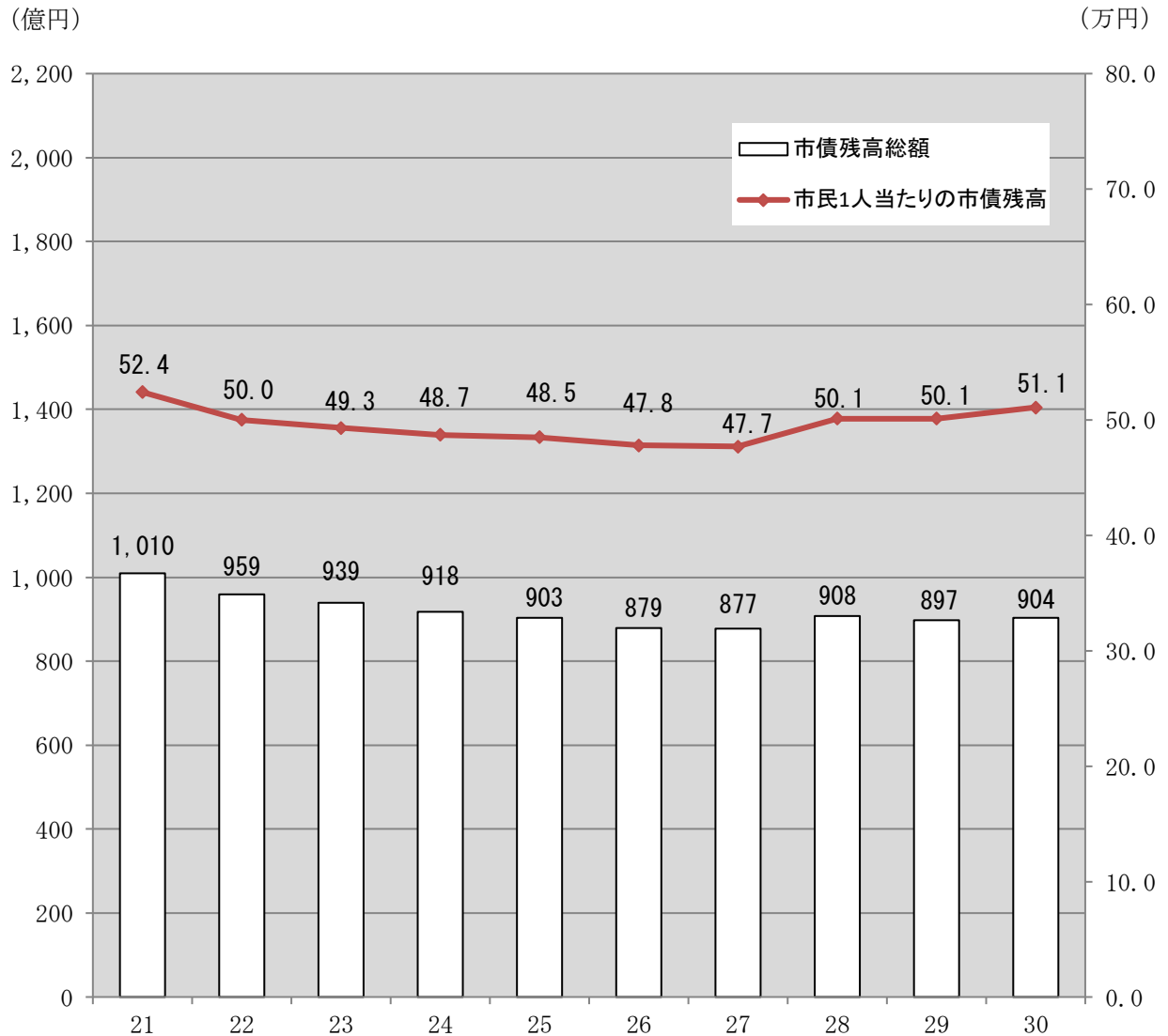
＜ 市 債 現 在 高 表 ＞

(単位：千円)

会計名	事業別	平成30年度末 現在高	平成29年度末 現在高
一 般 会 計	公 共 事 業 等 債 (街路整備事業や公園緑地事業など)	3,037,612	3,032,082
	一 般 単 独 事 業 債 (生活道路の整備や文教施設の建設など)	17,190,643	15,719,656
	公 営 住 宅 建 設 事 業 債 (市営住宅の整備費、敷地の取得など)	780,481	847,814
	学 校 教 育 施 設 等 整 備 事 業 債 (小・中学校の校舎、体育館の整備など)	2,035,027	1,520,359
	一 般 廃 棄 物 処 理 事 業 債 (清掃センターや埋立処分場などの建設)	19,331	23,545
	厚 生 福 祉 施 設 整 備 事 業 債 (社会福祉施設やスポーツ施設などの建設)	48,610	107,953
	減 税 補 填 債 (減税による不足財源を補うもの)	725,995	946,893
	臨 時 財 政 対 策 債 (地方財政の収支不足対策として措置されたもの)	24,008,429	23,105,038
	そ の 他	10,978,519	10,953,497
	計	58,824,647	56,256,837
特 別 ・ 企 業 会 計	戸 別 合 併 処 理 浄 化 槽 事 業 債	117,441	122,934
	水 道 事 業 債	15,232,773	15,456,118
	下 水 道 事 業 債 (注)	16,259,177	17,905,283
	計	31,609,391	33,484,335
合 計		90,434,038	89,741,172

(注) 下水道事業債の現在高には、日立・高萩広域下水道組合における日立市分の現在高が含まれています。

## ＜市債残高総額及び市民1人当たりの市債残高＞



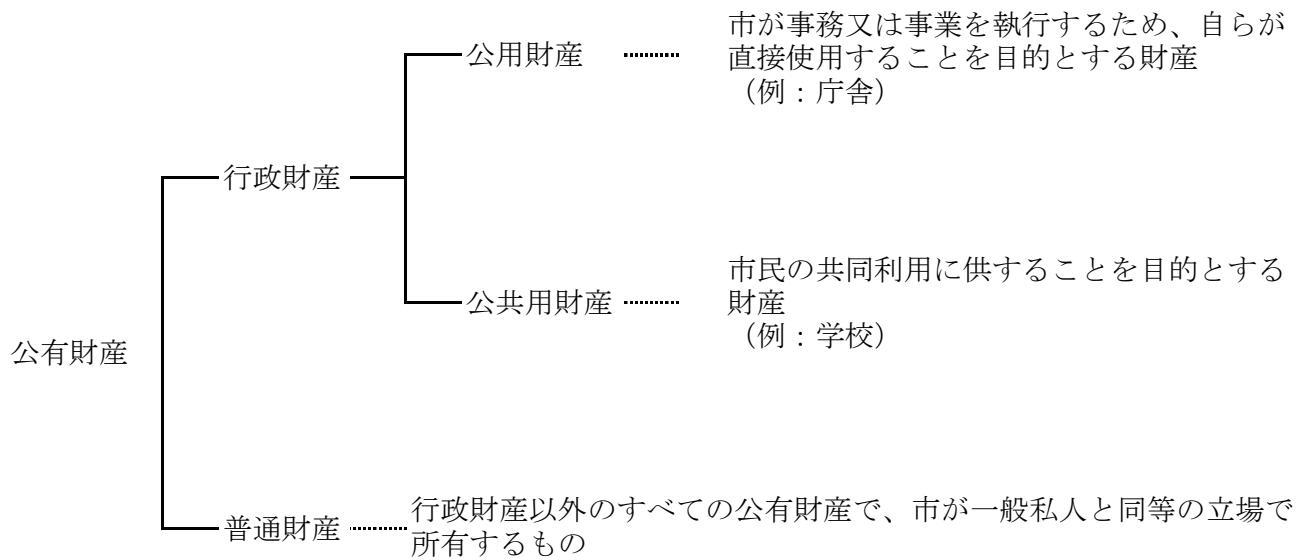
## 2 一時借入金

一時借入金は、会計年度中に一時的に収支の不均衡が生じ、歳計現金が不足した場合に、その資金の不足を補うために借り入れるものです。したがって、一時借入金は、その会計年度の歳入で返済します。

令和元年度上半期時点で、一時借入金の残高はありません。

## 第6 市有財産の状況について

### 1 公有財産の分類



### 2 公有財産現在高

平成31年3月31日現在において、市が所有している公有財産の現在高は、次表のとおりです。

## ＜公有財産現在高表＞

(平成31年3月31日現在)

区分	単位	行政財産			普通財産	合計 (A)	前年度末現在高 (平成30年3月31日現在) (B)	年度中増減高 (A)-(B)	
		公用財産	公共用財産	計					
土地	m <sup>2</sup>	243,910.09	5,131,465.43	5,375,375.52	2,786,191.45	8,161,566.97	8,152,981.45	8,585.52	
建物	m <sup>2</sup>	53,948.16	729,841.87	783,790.03	11,621.16	795,411.19	782,897.75	12,513.44	
立木 (推定蓄積)	市有林	m <sup>3</sup>	—	—	—	28,433.83	28,433.83	28,182.50	251.33
	分収林	m <sup>3</sup>	—	—	—	50,954.46	50,954.46	50,256.96	697.50
船舶	隻	—	—	—	.	—	—	0	
地上権	m <sup>2</sup>	—	—	422,571.51	17,715.94	440,287.45	454,244.54	△ 13,957.09	
温泉権	件	—	—	—	1	1	1	0	
有価証券	千円	—	—	—	—	120,848	120,848	0	
出資による権利	千円	—	—	—	—	604,075	601,293	2,782	

### 3 基金の状況

基金は、その運用形態により積立基金と定額運用基金に大別されます。

市は、それぞれの基金について、条例に定められた特定の目的に応じ、確実かつ効率的な運用に努めています。

#### (1) 積立基金

積立基金は、特定の目的のために財産を維持し、資金を積み立てるために設置される基金です。

令和元年度上半期における積立基金の積立て及び取崩しの状況は、下表のとおりです。

#### ＜ 積 立 基 金 の 状 況 ＞

平成31年4月 1日から

令和元年9月30日まで

(単位：千円)

基金名	平成31年3月末 現在高	今 期		差引現在高
		積 立 て	取 崩 し	
財 政 調 整 基 金	5,300,743	961,203	1,060,380	5,201,566
市 債 償 還 基 金	12,424,321	8,004,289	5,466,583	14,962,027
市 営 住 宅 等 敷 金 基 金	154,383	4,305	9,970	148,718
田 淵 ナ ツ 福 祉 基 金	112,287	0	0	112,287
福 祉 事 業 基 金	247,354	54	0	247,408
文 化 振 興 基 金	55,005	0	0	55,005
緑 化 基 金	111,387	0	0	111,387
国 際 交 流 基 金	10,300	0	0	10,300
ス ポ ー ツ 振 興 基 金	11,074	0	0	11,074
国民健康保険事業財政調整基金	169,517	117,581	0	287,098
日立鞍掛山霊園管理基金	704,075	336	13,805	690,606
吉田正記念事業基金	40,898	8,249	0	49,147
介護保険給付費準備基金	2,298,708	24,275	0	2,322,983
住宅団地分譲関連保証金及び敷金基金	118,978	49	0	119,027
コモンシティ十王・城の丘みどりの基金	148,423	0	0	148,423
鶴来来の湯十王整備基金	101,610	47	3,560	98,097
環境教育基金	53,268	182	3,308	50,142
地域振興基金	1,778,045	0	0	1,778,045
久慈サンピア日立等整備基金	52,330	12,066	17,043	47,353
未来をひらく子ども教育基金	93,139	10,715	13,485	90,369
公共施設等総合管理基金	3,511,355	1,233,571	561,464	4,183,462
日立シビックセンター科学館整備基金	0	536,475	0	536,475
計	27,497,200	10,913,397	7,149,598	31,260,999

## (2) 定額運用基金

定額運用基金は、特定の目的のために定額の資金を運用するために設置される基金です。

令和元年度上半期における定額運用基金の運用状況は、下表のとおりです。

### < 定 額 運 用 基 金 の 状 況 >

平成31年4月 1日から

令和 元 年9月30日まで

(単位：千円)

基金名	区分	平成31年3月末 現在高	今 期		差引現在高
			増	減	
高額療養費貸付基金	現金・預金	13,690	1,440	1,055	14,075
	貸付金	9,310	1,055	1,440	8,925
	小 計	23,000	2,495	2,495	23,000
奨学金貸付基金	現金・預金	266,559	28,816	40,893	254,482
	貸付金	307,004	40,893	28,816	319,081
	小 計	573,563	69,709	69,709	573,563
計		596,563	72,204	72,204	596,563

## 第7 健全化判断比率等の状況について

地方公共団体の財政悪化を未然に防ぎ、早期の改善を行うため、平成19年6月に「地方公共団体の財政の健全化に関する法律（財政健全化法）」ができました。

これにより、地方公共団体の財政状況を表す指標が定められ、いずれかの指標が一定の基準以上になると、財政の健全化に取り組む義務が生じます。

日立市における平成30年度決算に基づく「健全化判断比率」及び「資金不足比率」の算定結果は、下表のとおりです。

### 1 健全化判断比率

いずれの指標も健全化に関する基準を下回っています。

しかし、財政構造の弾力性（ゆとり）を示す経常収支比率が92.9%（平成30年度決算値）と高い水準にあるため、引き続き行財政改革を推進し、より健全な財政運営に努めていきます。

#### 【用語解説】経常収支比率

市税などの自由に使うことができる収入が、経常的に支出される人件費などの経費にどの程度充てられているかを示す指標で、この割合が高くなるほど新たな施策や道路、公園などの整備に充てる財源の余裕がなくなることを意味します。

(単位：%)

区 分	日立市の比率		早期健全化基準 (黄信号)※2	財政再生基準 (赤信号)※3	(参考)平成30年度の 県内44市町村の平均値 (9月末時点の速報値)
	平成30年度	平成29年度			
実質赤字比率	— ※1	— ※1	11.50	20.00	赤字団体なし
連結実質赤字比率	— ※1	— ※1	16.50	30.00	赤字団体なし
実質公債費比率	▲1.1	▲1.3	25.0	35.0	6.8
将来負担比率	— ※1	— ※1	350.0	基準なし	37.1

※1 実質赤字比率及び連結実質赤字比率は赤字額がなく、将来負担比率は算出されないため、「—」で表示しています。

※2 指標のいずれかが早期健全化基準以上になると**要注意の状態**で、「財政健全化計画」を策定し、自主的な改善努力により早期健全化に取り組まなければなりません。

※3 また、財政再生基準以上になると**財政破綻の状態**で、「財政再生計画」を策定し、国の管理下で確実な財政再建に取り組まなければなりません。

### 2 資金不足比率

いずれの公営企業会計も資金不足は生じておらず、資金不足比率は該当ありませんでした。

(単位：%)

区 分	事業規模(千円) (料金収入等) A	資金不足額 (千円) B	資金不足比率 B/A	経営健全化基準 (黄信号)※2
戸別合併処理浄化槽事業特別会計	8,163	—	— ※1	20.0
水道事業会計	3,020,377	—	— ※1	20.0
下水道事業会計	2,628,775	—	— ※1	20.0

※1 いずれの公営企業会計も資金不足額が生じていないため、「—」で表示しています。

※2 指標が経営健全化基準以上になると、「経営健全化計画」を策定し、公営企業の経営健全化に取り組まなければなりません。



### 3 健全化判断比率等の対象範囲と実質収支額等

(単位：千円)

会計区分	会計等の名称	平成30年度実質収支額 ・資金剰余(不足)額	健全化判断比率等の対象範囲					
一般会計等	一般会計	3,266,783	↑ 実質 赤字 比率					
	小計(実質収支額)	3,266,783						
公営事業会計	国民健康保険事業特別会計	10,139	↓ 実質 収支 額	連結 実質 赤字 比率	実質 公債 費比 率	将来 負担 比率		
	介護保険事業特別会計	196,068						
	介護サービス事業特別会計	484						
	後期高齢者医療事業特別会計	6,204						
	公営企業会計 法非適用企業	戸別合併処理浄化槽事業特別会計					0	資金 不足 比率
	水道事業会計	2,008,372						
下水道事業特別会計	110,088							
合計(連結実質収支額等)		5,598,138						
広域連合・一部事務組合 (日・高広域下水道組合など)								
地方公社・第三セクター (日立市土地開発公社、(財)日立市公園協会など)								

※ 実質収支が赤字の場合と資金不足が生じた場合は、「△」で表示しています。

※ 公営企業会計の法適用企業における資金剰余(不足)額は、流動資産(現金預金、未収金等)から流動負債等(未払金等)を差し引いて算出され、その他の会計における実質収支額等については、歳入歳出差引額から翌年度への繰越財源を差し引いて算出されます。

※ 上記の実質収支額等は、会計間の数値移動や重複経費等を除外しており、決算書等の決算額と異なる場合があります。

#### 各指標の解説

##### (1) 実質赤字比率

一般会計等の実質的な赤字額が、市の標準財政規模(市税や普通交付税など、毎年度継続的に歳入される一般財源の総額)に対してどのくらいの割合になるかを指標化したもので、**財政運営の深刻度**を示します。家計に例えると、年収に占める年間赤字額の割合です。

##### (2) 連結実質赤字比率

全会計の実質的な赤字額が、市の標準財政規模に対してどのくらいの割合になるかを指標化したもので、**地方公共団体全体としての運営の深刻度**を示します。基本的に「実質赤字比率」と同じですが、家計に例えると、家族全員の年収に占める年間赤字額の割合です。

##### (3) 実質公債費比率

一般会計等の借入金返済額やこれに準ずる額(公営企業会計や一部事務組合の借入金返済額のうち、一般会計が負担する額)が、市の標準財政規模に対してどのくらいの割合になるかを指標化したもので、**市の資金繰りの危険度**を示します。家計に例えると、年収に占める年間の借金返済総額の割合です。

##### (4) 将来負担比率

一般会計等の借入金や将来支払っていく可能性のある負担等(将来の支払いを約束した債務負担行為や退職手当支給予定額など)の現時点での実質的な債務残高が、市の標準財政規模に対してどのくらいの割合になるかを指標化したもので、**将来の財政への圧迫度**を示します。家計に例えると、年収に対して「何年分の借金」があるかを示す割合です。比率が100%の場合には、1年分の年収と同じ借金総額があるということになります。

##### (5) 資金不足比率

健全化判断比率と同じく、財政健全化法で新たに定められた指標で、市が運営する公営企業会計における資金不足(赤字)額が、事業規模である料金収入等に対してどのくらいの割合になるかを指標化したもので、**公営企業の経営状況の深刻度**を示します。